

## 米国教会と広島の小中学生たち

## 投下翌年の交流映画に

原爆投下翌年、米国の教会が広島市内の小学校などに絵の具やクレヨンを届け、小学生たちはお礼にと贈り物で描いた絵を送った。実際にあったこの交流をドキュメンタリー映画にしようと、米ワシントン在住の舞台芸術家、重藤静美マナーレさん(56)が撮影や取材のため広島を訪れた。重藤さんは17日、平和記念資料館(広島市中区)で報告会を開き「心温まる話を映画の導入にして原爆の話と避ける米国人にも訴えたい」と語った。(秋山千佳)

## 在米舞台芸術家 重藤さん来広

重藤さんは、旧甲山町(現...から証言にやってくる被爆者  
在の世羅町)生まれ。35年前...と交流したり自宅に宿泊して  
に米国へ移住し、25年ほど前...もちょうようにしたりするよう

になった。



制作中のドキュメンタリー映画について  
語る重藤静美マナーレさん(広島市中区)

06年8月、偶然訪れたオー  
ルソウルズ教会で、1947  
年に本川小学校(広島市中  
区)の児童が描いて送ってき  
たという48枚の絵画や書を見  
せられた。長年教会の地下で  
箱に入れて保管されていたも  
のだった。鮮やかなピンク色

の着物を着た女の子、原爆下  
ーム、遠足の様子……。惨状  
にめげず、描く喜びが前面に  
出ている絵に「玉手箱から光  
が出てきたようだ」と感銘を  
受けたという。

しかし半世紀以上の月日で  
画用紙は破れ、裏返すとかび  
が生えているものもあった。  
重藤さんは修復に乗り出し、  
共感した教会員約200人の  
寄付により、07年12月、約2  
00万円をかけて修復が完了  
した。

重藤さんは当初、この修復  
過程を15分程度の記録映画に  
まとめるつもりだったが、絵  
を描いた子どもたちの現在の  
インタビューなども盛り込ん  
だ長編にすることを決意。48  
枚の絵画の作者のうち、これ  
まで12人に会ったという。あ

る女性は、爆心地近くの河川  
敷がこうなっているほしい、とい  
う願いをこめ、当時実際には  
なかった満開の桜並木を描い  
たことを話してくれた。重藤  
さんは「草木も生えないと言  
われた広島で桜が咲き誇って  
いる様子を撮りたい」と、春  
にはヘリコプターでの撮影も  
検討中だ。「原爆投下の政治  
的背景も入れ、世界に通じる  
映画にしたい」

映画の予算は3千万円で、  
現在500万円を自ら負担し  
ているが、不足分は日米で寄  
付を呼びかけたいという。問  
い合わせは、重藤さんのメー  
ル(shizumidance@star  
power.net)か、本川小学  
校同窓会世話人の世良さん  
(ファクス0829・32・8  
478)へ。

平和を考える